

西アジア関連学術論文・出版物 (2006年1月～12月)

このコーナーは、西アジア地域研究に関連する文献情報を速やかに交換することを目的としています。会員の皆様が発表した学術論文ならびに出版物を中心に紹介するコーナーで、皆様から寄せられた情報に基づいて構成しています。そのためには会員の皆様の自発的な情報提供が必要です。今後とも編集委員もしくは事務局まで積極的に情報をお寄せ下さい。

なお、「西アジア考古学」第7号(2006年3月刊)では、皆様から寄せられた貴重な情報の掲載漏れが発生してしまいました。記してお詫びすると共に、本号では一部に、2005年の学術論文・出版物情報を掲載しております。

(西アジア考古学編集委員会: edit_jswaa@yahoo.co.jp)

- 足立拓朗 2006.6「鉄器時代 期からみたメディアの考古学的解釈」『日本西アジア考古学会 第11回総会・大会要旨集』63-69頁 日本西アジア考古学会。
- 足立拓朗(編)2006.7『中近東の土偶』中近東文化センター。
- 足立拓朗 2006.8「イランの世界遺産」「用語解説」など 朝日新聞社事業本部文化事業部、東映事業推進部(編)『ベルシア文明展 煌めく7000年の至宝』朝日新聞社・東映。
- 足立拓朗(編)2006.9『古代ユーラシアの青銅器』中近東文化センター。
- Adachi, T. 2006 The Developments of the Beak-shaped Spouted Vessels in Iron Age Iran. *Archaeological Reports* 5: 35-45. Iranian Cultural Heritage and Tourism Organization.
- 有松 唯 2006.6「カスピ海南西岸域における鉄器時代文化の変容と展開 - 土器分析を中心に」『日本西アジア考古学会 第11回総会・大会要旨集』56-62頁 日本西アジア考古学会。
- 有松 唯 2006.10「カスピ海南西岸域に於ける鉄器時代の遺跡分布」『日本オリエント学会 第48回大会研究発表要旨集』42頁 日本オリエント学会。
- 池田 裕 2006.3「風のごとく - 馬と旧約聖書 - 」『西アジア考古学』7:47-53頁 日本西アジア考古学会。
- 石田恵子 2006.1「眼の偶像」『オリエント』32:1-3頁 古代オリエント博物館。
- 石田恵子 2006.1「円筒系印章の始まり」『オリエント』32:4-12頁 古代オリエント博物館。
- 石田恵子 2006.3「刻線画のある石製容器片 シリア国テル・ルメイラ出土」『古代オリエント博物館紀要』25:43-56頁 古代オリエント博物館。
- 石田恵子 2006.3「金をめぐって」『世界の金貨と銀貨』91-93頁 古代オリエント博物館。
- 石田恵子 2006.7「イランの印章: 円筒印章とスタンプ印章」朝日新聞社事業本部文化事業部、東映事業推進部(編)『ベルシア文明展 煌めく7000年の至宝』86-89頁 朝日新聞社・東映。
- 石田恵子 2006.9「粘土に浮か上がるメッセージ(西アジアの印章)」『シルクロード 華麗なる植物文様の世界』山川出版社。
- 石渡美江 2006.12「北朝における中国在住のソグド人墓 - 史君墓を中心にして - 」『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』24-27頁 ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- 泉 拓良・西山要一 2005.3「レバノン共和国ティール遺跡の学術調査2004」『第12回西アジア発掘報告会報告集』76-82頁 日本西アジア考古学会。
- 泉 拓良・宮坂 朋 2006.3「ティール市郊外出土のタニット女神記号付分銅の研究」『日本オリエント学会 第48回大会研究発表要旨集』43頁 日本オリエント学会。
- 稲垣 肇 2006.12「古代バクトリアと「オクサス神殿」をめぐる諸問題 タジキスタン・タフティサンギン 2004、2006年の発掘に関連して」『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』14-16頁 ヘレニズム～イスラーム考古学研究会
- 岩井俊平 2006.3「文化財研究所によるパーミヤーン遺跡保存事業」『オリエント』48-2:145-159頁 日本オリエント学会。
- 江添 誠 2006.12「デカポリス都市の形成過程」『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』91-94頁 ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- 遠藤 仁 2006.3「鉄器時代の石器 - 中エジプト・アコリス遺跡の石器利用」『西アジア考古学』7:117-122頁 日本西アジア考古学会。
- 遠藤 仁 2006.6「エジプト末期王朝期の石器 - フリント製鎌刃の使用状況 - 」『日本西アジア考古学会 第11回総会・大会要旨集』51-55頁 日本西アジア考古学会。
- 大城道則 2006「古代エジプト文化形成期とシナイ半島の交流について - 銅・マラカイト・トルコ石を中心に」『駒澤大学文学部研究紀要』第64号: 49-64頁。
- Ohshiro, M. 2006 The Cradle Period of Ancient Egyptian Culture: A Study of the Inflow of Foreign Elements in the Pre and Early Dynasty Periods. *Goettinger Miscellen* 210:93-104.
- 大津忠彦 2005.3「2004年度イラン遺跡調査 - 『日本・イラン共同調査団』によるセフィードルード川流域(ギーラーン州)における考古学調査 - 」『第12回西アジア発掘報告会報告集』64-69頁 日本西アジア考古学会。
- 大津忠彦 2006.1「古代西アジアの土器とロビンソン・クルーソーのうつわ - 『絶世奇談』に読む「新石器革命」 - 」、『筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部 紀要』1:139-149頁 筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部。
- 大津忠彦 2006.8「日本・イラン共同考古学調査研究事業 - 経緯と研究環境上の諸問題 - 」、『国際文化研究所「論叢」』17:141-152頁 筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部 人間文化研究所。
- 大津忠彦・足立拓朗 2006.3「『日本・イラン共同考古学調査団』のギーラーン調査とその成果」『第13回西アジア発掘報告会報告集』92-96頁 日本西アジア考古学会。

- 大津忠彦・後藤 健(監修) 2006.7 『ペルシャ文明展 煌めく 7000 年の至宝』朝日新聞社、東映。
- Ohtsu, Y., K. Yamauchi, J. Nockandeh and T. Adachi 2006.12 *Report of the Iran Japan Joint Archaeological Expedition to Gilan, Fifth Season. Iranian Cultural Heritage and Tourism and the Middle Eastern Culture Center in Japan.*
- 岡田保良 2006.8 「組積作りの建築遺構をめぐり歩く - レバノン篇」『Newsletter セム系部族社会の形成』3:9-14 頁。
- 岡田保良 2006.9 「古代西アジアにおける最初期の建築とその建材に関する一考察」『国史館考古学』2:79-86 頁 国史館大学考古学会。
- 岡田保良 2006.12 「続・ガダラのドミカル・ヴォールト」『第 13 回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』99-102 頁 ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- 置田雅昭・桑原久男 2005.3 「テル・ゼロールからエン・ゲブへ そしてテル・レヘシュ - イスラエル国における日本調査隊の活動」『第 12 回西アジア発掘報告会報告集』53-58 頁 日本西アジア考古学会。
- Oguchi, H. 2006 The Date of the Beginning of Khabur Ware Period 3: Evidence from the Palace of Qarni-lim at Tell Leilan. *Al-Rāfidān* 27:45-58.
- 小坂敬寛 2006.10 「西アジア新石器時代における土器製作の開始と生業との関係」藤本強(編)『生業の考古学』264-276 頁 同成社。
- 小谷仲男 2006.12 「新出土のガンダラ浮彫図：一角仙人」『第 13 回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』21-23 頁 ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- 柏木裕之 2006.6 「エジプト、ダハシュール北遺跡に見るシャフトの掘削方法について」『日本西アジア考古学会 第 11 回総会・大会要旨集』44-50 頁 日本西アジア考古学会。
- 柏木裕之 2006.10 「エジプト、アブ・シール南丘陵遺跡から出土した石積み以降の建築的特徴と保存整備」『日本オリエント学会 第 48 回大会研究発表要旨集』13 頁 日本オリエント学会。
- 門脇誠二 2006.8 「土器新石器時代の北ヨルダン、ワディ・ジクラブにおける鎌刃の形態と製作技術」『月刊考古学ジャーナル』547: 20-24 頁 ニュー・サイエンス社。
- Kadowaki, S. 2005 Design and Production technology of Sickle-elements in Late Neolithic Wadi Ziqlab, northern Jordan. *Paléorient* 31(2): 69-85.
- Banning, E. B., K. Gibbs and S. Kadowaki 2005 Excavations at Late Neolithic a-Basatūn in Wadi Ziqlab, Northern Jordan. *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 49: 229-244.
- Kadowaki, S. 2006.6 Ground-stone tools and implications for the use of space and social relations at 'Ain Abu Nukhayla, a PPNB settlement in southern Jordan. In E. B. Banning and M. Chazan (eds) *Domesticating Space: Construction, Community, and Cosmology in the Late Prehistoric Near East*: 53-64. ex oriente, Berlin.
- 禿 仁志 2005.3 「ブルガリアで青銅器時代のムラを掘る - デャドヴォ遺跡 2004 年度(第 16 次)発掘調査から - 」『第 12 回西アジア発掘報告会報告集』39-47 頁 日本西アジア考古学会。
- 禿 仁志 2006.3 「ブルガリアの青銅器時代集落を掘る - デャドヴォ遺跡 2005 年度(第 17 次)発掘調査から - 」『第 13 回西アジア発掘報告会報告集』97-102 頁 日本西アジア考古学会。
- 禿 仁志 2006.5 『トラキア民族の形成と系統に関する考古学的・人類学的調査・研究(平成 16 年度～平成 17 年度科学研究費補助金(基盤研究 B 成果報告書))』1-39 頁 東海大学トラキア発掘調査団。
- 禿 仁志・千本真生・渡辺広勝 2006.8 『ブルガリア・デャドヴォ遺跡の第 17 次発掘調査報告(2005)』*Dyadovo Studies* 5: 1-97 頁 東海大学トラキア発掘調査団。
- Kamuro, H. 2006.3 *Dyadovo Excavation 2005 -The Prompt Report-, The Dyadovo Prompt Report Series 1:1-6.* Tokai University Thracian Excavation.
- 河合 望 2006.6 「エジプト、アブ・シール南丘陵遺跡岩窟遺構出土の塑像群について」『日本西アジア考古学会 第 11 回総会・大会要旨集』27-31 頁 日本西アジア考古学会。
- 河合 望 2006.7 「アブ・シール南の「聖なる丘」を掘る」『公開シンポジウム エジプトを護る - 保存の世紀を迎えて: 文化遺産保存の実践と今後 - 』40-45 頁 平成 18 年度文部科学省科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業
- 河合 望 2006.10 「アイとホルムヘブ - ポスト・アマルナ時代史の一局画」『日本オリエント学会 第 48 回大会研究発表要旨集』12 頁 日本オリエント学会。
- Kawai, N. 2006 *Studies in the Reign of Tutankhamun*, Ph.D. dissertation, The Johns Hopkins University, University Microform International, Ann Arbor.
- 川上直彦 2006.3 「アッカド王朝サルゴン王碑文に言及されるトゥールトゥール市の所在地同定」『西アジア考古学』7:83-92 頁 日本西アジア考古学会。
- 川崎建三 2006.6 「ダルヴェルジン・テパ出土基壇モデルの用途について」『日本西アジア考古学会 第 11 回総会・大会要旨集』70-74 頁 日本西アジア考古学会。
- 川床睦夫 2006.3 「イスラーム時代の土製箱型香炉」『イスラーム時代の土製箱型香炉』(シルクロード学研究 25) 1:1-191, 215-217 頁シルクロード学研究センター。
- 川床睦夫 2006.3 「第 25 次ラーヤ・トゥール地域の考古学的調査(2005 年度)」『第 13 回西アジア発掘調査報告会報告集』73-79 頁 日本西アジア考古学会。
- 川床睦夫 2006.5 「イスラーム考古学の現在」『世界史の研究 207 歴史と地理』53-57 頁。
- 川床睦夫 2006 「第 24 次ラーヤ・トゥール地域の考古学的調査」『エジプト・シナイ半島ラーヤ・トゥール地域の考古学的調査 第 24 次(2004 年度)』1-56 頁 中近東文化センター。
- Kawatoko, M. 2006 *Ancient and Islamic Rock Inscriptions of South Sinai.* The Middle Eastern Culture Center in Japan and Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies.
- 川西宏幸 2005.3 「エジプト・アコリス遺跡の調査 2004」『第 12 回西アジア発掘報告会報告集』70-75 頁 日本西アジア考古学会。
- 川西宏幸・辻村純代 2006.3 「古代エジプト王朝の終焉 - アコリス発掘 2005 - 」『第 13 回西アジア発掘報告会報告集』17-21 頁 日本西アジア考古学会。
- Kawanishi, H. S.Tsujimura, S.Uchida, T.Hanasaka, Y.Hori, Y.Suto, and R.Takahashi 2006.7 *Preliminary Report Akoris 2005.* History and Anthropology of University of Tsukuba.
- 川又正智 2006.10 『漢代以前のシルクロード』雄山閣。
- 木原徳子 2006.3 「トークンから見たウルク・エクスパンション」『西アジア考古学』7:61-81 頁 日本西アジア考古学会。
- 小泉龍人 2006.9 「古代西アジアの土器製作技術 - 文化の拡散経路と都市化 - 」『国史館考古学』2:1-21 頁 国史館大学考古学会。
- 小泉龍人 2006.12 「古代西アジアのワインづくり - 起源と広がり - 」『馬とワイン - その起源と広がりを探る - 』(第 8 回日本西アジア考古学会公開セミナー要旨集) 1-4 頁。
- 後藤 健 2006.12 「ペルシア湾岸のヘレニズムとは何か」『第 13 回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』35-44 頁 ヘレニズム～イ

- スラム考古学研究会。
- 近藤二郎 2005.3「サッカー・ダハシュール地域の発掘調査 - エジプト、アブ・シール南丘陵遺跡第13次調査、ダハシュール北遺跡第10次調査」『第12回西アジア発掘報告会報告集』48-52頁 日本西アジア考古学会。
- 近藤康久 2006.3「北イラク、テル・アシク遺跡で採集された後期新石器時代の彩文土器片について」『西アジア考古学』7:107-115頁 日本西アジア考古学会。
- 西藤清秀 2006.5「パルミラの墓の形態に関する一考察」『日本考古学協会 第72回総会発表要旨』284-287頁 日本考古学協会。
- 齋藤正憲 2006.9「エジプト・ナカダ期の土器製作技術 - 土器年度の分析並びに生産形態の変容に関する一考察 - 」『オリエント』49/1:110-130頁 日本オリエント学会。
- 齋藤正憲 2006.10「エジプト・デルタ地帯の土器作り」『日本オリエント学会 第48回大会研究発表要旨集』47頁 日本オリエント学会。
- 佐々木達夫 2006.3「ジュルファール出土陶磁器の重量」『金沢大学文学部論集史学・考古学・地理学篇』26:51-202頁。
- 佐々木達夫 2006.4「アラビア半島の泥レンガ管・保存と修復(上)」『北陸中日新聞』4月30日。
- 佐々木達夫・佐々木花江 2006.4「フジェイラ首長国のイスラーム時代遺跡踏査」『金大考古』52:6-15頁。
- 佐々木達夫 2006.5「アラビア半島の泥レンガ管・保存と修復(下)」『北陸中日新聞』5月7日。
- 佐々木達夫 2006.10「アッパース朝と唐の陶磁器生産技術の交流」『日本オリエント学会 第48回大会研究発表要旨集』:46頁 日本オリエント学会。
- 佐々木達夫 2006.10「アラビア半島港町遺跡の食料残渣が語るもの」藤井強(編)『生業の考古学』338-352頁 同成社。
- 佐々木達夫・佐々木花江 2006.3「ポルトガルが襲った中世港町遺跡 コールファッカンの発掘 2001~2005年」『第13回西アジア発掘調査報告会報告集』80-84頁 日本西アジア考古学会。
- 佐々木達夫・佐々木花江 2006.7「マサフィ管の発掘と保存修復」『金大考古』53:6-17頁。
- 佐々木達夫・佐々木花江 2006.12「ササン・ウマイヤ朝時代のハレイラ島を文化環境で解釈する」『第13回ヘレニズム~イスラーム考古学研究』45-56頁 へレニズム~イスラーム考古学研究会。
- Jérémie Schiettecatte 2006.12「Urbanization and settlement pattern in Hadramawt (Yemen) during the first millennium BC.」『第13回ヘレニズム~イスラーム考古学研究』95-98頁 へレニズム~イスラーム考古学研究会。
- 四角隆二 2006.1「灰色磨研把手付壺」四角隆二編『岡hコレクション名品選 - オリエントを横断する』15頁 岡山市立オリエント美術館。
- 四角隆二 2006.10「イラン、タッペ・ジャラリエ遺跡の土器組成について」『日本オリエント学会 第48回大会研究発表要旨集』41頁 日本オリエント学会。
- Shikaku, R. 2006.12 Pottery analysis from Tappeh Jalaliye. in Ohtsu, Y., K. Yamauchi, J. Nockandeh and T. Adachi (eds) *Report of the Iran Japan Joint Archaeological Expedition to Gilan, Fifth Season.*:144-148. Tehran and Tokyo, Iranian Cultural Heritage and Tourism Organization, and the Middle Eastern Culture Center in Japan.
- 柴田大輔 2006.10「前一千年紀メソポタミアの神殿祭儀に於けるシュメル語シュイラ祈祷朗詠の役割」『日本オリエント学会 第48回大会研究発表要旨集』20頁 日本オリエント学会。
- 柴田大輔・山田重郎 2006.3「2005年テル・タバノ出土楔形文字文書について」『第13回西アジア発掘報告会報告集』63-66頁 日本西アジア考古学会。
- 吹田 浩 2006.3「エジプト国サッカーのイドウートのマスタバ - 修復の事前調査(2003~2005年)から」『第13回西アジア発掘報告会報告集』8-11頁 日本西アジア考古学会。
- 吹田 浩・吹田真理子 2006.10「エジプト国イドウートのマスタバの調査と修復 - 第4次ミッション(2006年度)の概要」『日本オリエント学会 第48回大会研究発表要旨集』10頁 日本オリエント学会。
- 杉本智俊 2006.3「勇士サムソンの世界 - ホルヴァト・シヨヴァブ遺跡(イスラエル)における考古学的予備調査」『第13回西アジア発掘報告会報告集』115-119頁 日本西アジア考古学会。
- 杉本智俊 2006.3「エン・ゲブ遺跡(イスラエル)の成立年代」『オリエント』48/2:1-27頁 日本オリエント学会。
- 須藤寛史 2006.9「西アジア銅石器時代における円筒印章の『発明』」『国史館考古学』2:23-36頁 国史館大学考古学会。
- 須藤寛史 2006.10「西アジア新石器時代における製粉具研究の諸問題」藤本強(編)『生業の考古学』277-291頁 同成社。
- 須藤寛史・西秋良宏 2006.6「シリア、テル・セクル・アル・アヘイマル遺跡の動物骨埋納」『日本西アジア考古学会 第11回総会・大会要旨集』17-22頁 日本西アジア考古学会。
- 高橋寿光 2006.6「エジプト、アブ・シール南丘陵遺跡岩窟遺構出土の中王国時代の土器に関する一考察」『日本西アジア考古学会 第11回総会・大会要旨集』32-37頁 日本西アジア考古学会。
- 高橋寿光 2006.10「エジプト、ディール・アル=マディーナ出土の石製及びガラス製容器を模倣した彩文土器について」『日本オリエント学会 第48回大会研究発表要旨集』14頁 日本オリエント学会。
- 高濱 秀 2006.8「公募研究『北方ユーラシア遊牧民族社会の考古学的研究』の開始にあたって」『Newsletter セム系部族社会の形成』3:24-29頁。
- 高宮いづみ 2006.1「エジプト美術」「石製容器」「石灰岩製ハトホル女神のシストルム」「ホルスの4人の息子たち」「ソカル・オシリス神像」四角隆二(編)『岡hコレクション名品選 - オリエントを横断する - 』4-7頁 岡山市立オリエント美術館。
- 高宮いづみ 2006.6「古代エジプト文明社会の形成」京都大学学術出版会。
- 高宮いづみ 2006.10「先王朝時代の加熱・焼成施設について - ヒエラコンポリス遺跡 HK11C 地区 A6-7 の発掘調査から」『日本オリエント学会 第48回大会研究発表要旨集』8頁 日本オリエント学会。
- 巽 善信 2006.3「テル・ゼロール出土のランプと葬送儀礼」『オリエント』48/2:169-172頁 日本オリエント学会。
- 田辺勝美 2006.1「ガンダーラ仏教美術」「16人のバラモン学生の訪仏」四角隆二(編)『岡hコレクション名品選 - オリエントを横断する』20-21頁 岡山市立オリエント美術館。
- 田辺勝美 2006.3「ガンダーラ仏教彫刻における化粧する貴婦人の象徴的意味」『古代オリエント博物館紀要』25:73-86頁 古代オリエント博物館。
- 谷一 尚 2006.1「ベルシャ陶器と加藤卓男」『陶のシルクロード、加藤卓男の陶芸』12-20頁 岐阜県現代陶芸美術館。
- 谷一 尚 2006.1「岡hコレクションの蒐集と受贈の経緯」「ベルシャ美術」「円形切子碗」四角隆二編『岡hコレクション名品選 - オリエントを横断する - 』2,14,16-17頁 岡山市立オリエント美術館。
- Taniichi, T., Sawada, T., Hokura, A. and Nakai, I. 2005.12 Analysis of Glass Artifacts from a Roman Villa at Cazzanello Using a Portable X-

- ray Fluorescence Spectrometer 『文化交流研究 東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要』18:138-150 頁 東京大学文学部次世代人文学開発センター。
- 辻 成史 2006.12 「エリュデニス(トルコ共和国ムラ県フェティエ市)の古代末期・初期ビザンティオン遺構と装飾の編年(1)貨幣 - その1 - 」『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』68-80 頁 ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- 辻村純代 2006.3 「デール・エル・カラー遺跡の史跡公園化計画について - レバノンにおける観光開発と遺跡保存 - 」『西アジア考古学』7:123-128 頁 日本西アジア考古学会。
- 辻村純代 2006.12 「ローマ都市の街路」『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』8-10 頁 ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- 常木 晃 2006.1 「オリーブの文化誌 その1:オリーブ同盟結成される」『オリエンテ』32:19-28 頁 古代オリエン特博物館。
- 常木 晃 2006.3 「新石器時代の巨大集落 - シリア、テル・エル・ケルク遺跡の2005年度調査 - 」『第13回西アジア発掘調査報告会報告集』29-34 頁 日本西アジア考古学会。
- 常木 晃 2006.3 「おわりに」『筑波大学考古学資料カタログ1.イスラム陶器』35-35 頁。
- 常木 晃 2006.5 「西アジア新石器時代における封泥システムの発達 - テル・エル・ケルク遺跡の調査から - 」『日本考古学協会第72回総会研究発表要旨』278-281 頁 日本考古学協会。
- 常木 晃 2006.7 「イラン・シバンド川ダム建設に伴う遺跡救済プロジェクト」『オリエンテ』33:裏表紙 古代オリエン特博物館。
- 常木 晃 2006.8 「考古学フィールドとしてのジャバル・ビシュリ」『Newsletter セム系部族社会の形成』3:1-8 頁。
- 常木 晃・山内和也 2006.3 「イラン・ファルス地方シヴァンド川ダム建設に伴う遺跡救済プロジェクト」『第13回西アジア発掘調査報告会報告集』85-91 頁 日本西アジア考古学会。
- Tsuneki, A. 2006.4 A Large and Complex Neolithic Settlement at Tell el-Kerkh, Syria. *Abstracts, 5th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East*, 69. Madlid.
- Tsuneki, A., M. Arimura, O. Maeda, K. Tanno, and T. Anezaki, 2006.12 The early PPNB in the north Levant: A new perspective from Tell Ain el-Kerkh, northwest Syria. *Paléorient* 32/1: 47-71.
- Tsuneki, A. and M. Zeidi, 2006.2 Iran/Japan Archaeological Expedition to the Sivand Dam Salvage Area, 2005. *Abstracts Symposium on the Archaeological Rescue Excavations in the Bolaghi Valley*: 9-12. Iranian Center for Archaeological Research, Shiraz.
- 土谷瑤子 2006.10 「ダレルとギルギットを結ぶルート:ハンベリー溪谷上流地域及びカルガー溪谷パキスタン北部地方 法顕の道現地調査:2005」『日本オリエン特学会 48回大会研究発表要旨集』39 頁 日本オリエン特学会。
- 津村真輝子・宮下佐江子(編)2006.3 『世界の金貨と銀貨』古代オリエン特博物館。
- 津村真輝子 2006.6 「ササン朝のスタンプ印章」『シルクロードのきらめき - 正倉院文化の源流を尋ねて - 』31-33 頁 平山郁夫シルクロード美術館。
- 津村真輝子 2006.7 「ペルシア歴代の王とコイン」朝日新聞社事業本部文化事業部、東映事業推進部(編)『ペルシア文明展 煌めく7000年の至宝』152-159 頁 朝日新聞社・東映。
- Tome, C. and S. Nishiyama 2006.3 Animals in the Iron Age and Persian Period: Preliminary Report of Faunal Remains from Tell Mastuma, Northwest Syria 『古代オリエン特博物館紀要』25:87-117 頁 古代オリエン特博物館。
- 中井義明 2006.9 「帝国の終焉 - スパルタ帝国の解体の最終プロセス - (三)」『社会科学』77:17-44 頁 同志社大学人文科学研究会。
- 中井義明 2006.12 「ポイオティア戦争とスポドリラス事件」『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』57-62 頁 ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- 永井正勝 2006.3 「エジプト語国際会議参加報告」『オリエンテ』48/2:160-168 頁 日本オリエン特学会。
- 永井正勝 2006.10 「文献言語学としての古代エジプト語研究:その方法と実践」『日本オリエン特学会 第48回大会研究発表要旨集』19 頁 日本オリエン特学会。
- 中田一郎 2006.7 「アムル(アモリ)人のバビロニア移住」『オリエンテ』33:4-13 頁 古代オリエン特博物館。
- 中野智章 2006.10 「文様を通じた古代エジプト王権研究への新たなアプローチ」『日本オリエン特学会 第48回大会研究発表要旨集』9 頁 日本オリエン特学会。
- 中村俊夫、藤井純夫 2006.3 「西アジア考古学遺跡発掘資料の放射性炭素年代測定」『セム系部族社会の形成 平成17年度研究報告』82-86 頁。
- 西秋良宏 2005.3 「北メソポタミア農耕村落の起源 - セクル・アル・アヘイマル遺跡第五次発掘調査(2004年)」『第12回西アジア発掘報告会報告集』12-17 頁 日本西アジア考古学会。
- 西秋良宏 2005 「中東考古学と年代学」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』16:54-56 頁 名古屋大学年代測定総合研究センター。
- 西秋良宏 2006.3 「北メソポタミア農耕村落の起源 - セクル・アル・アヘイマル遺跡第6次発掘調査(2005年)」『第13回西アジア発掘報告会報告集』22-28 頁 日本西アジア考古学会。
- 西秋良宏 2006.10 「ムシュキとジャリ - イラン南西部、マルヴダシュト平原の新石器化に関する諸問題」藤本強編 『生業の考古学』292-305 頁 同成社。
- 西秋良宏 2006.10 「イラン南西部、マルヴ・ダシュト平原の新石器化と8.2k イベント」『日本オリエン特学会 第48回大会研究発表要旨集』40 頁 日本オリエン特学会。
- Nishiaki, Y. 2005.7 New insights from the Neolithic sequence of Tell Sekr al-Aheimar. Paper presented at *the International Symposium on The Neolithic Archaeology in the Khabur Valley, Upper Mesopotamia and Beyond*. The University Museum, The University of Tokyo.
- Nishiaki, Y. 2005.7 PPNB lithic technology and raw material procurement strategies at Tell Sekr al-Aheimar. Paper presented at *the International Symposium on The Neolithic Archaeology in the Khabur Valley, Upper Mesopotamia and Beyond*. The University Museum, The University of Tokyo.
- 西秋良宏・仲田大人・青木美千子・須藤寛史・米田 穰・近藤修・赤澤 威 2006.3 「シリア、デデリエ洞窟における2005年度の発掘調査」『高知工科大学紀要』3/1:135-153 頁 高知工科大学。
- 西秋良宏・三國博子・小川やよい・有松 唯 2006 『考古美術(西アジア)部門所蔵考古学資料目録:第7部イラン、デーラマン古墓の土器』東京大学総合研究博物館。
- Nishiaki, Y. and M. Le Mièrè 2005 The oldest Pottery Neolithic of Upper Mesopotamia: New evidence from Tell Seker al-Aheimar, the Upper Khabur, Northeast Syria. *Paléorient* 31(2): 55-68.
- Nishiaki, Y. and M. Mashkour 2006 The stratigraphy of the Neolithic site of Jari B, Marv Dasht, southwest Iran. *Orient Express - Notes et Nouvelles d'Archéologie Orientale* 2006 (3): 77-81.
- 西坂朗子 2006.10 「古代エジプト、テル・エドフにおけるイシの崇拜にかんする考古学的研究」『日本オリエン特学会 第48回大

- 会研究発表要旨集』11頁 日本オリエント学会。
- 西山伸一 2006.3「北西シリア鉄器時代の村落生活 - テル・マストゥーマ 2005年現地整理調査から」『第13回西アジア発掘報告会報告集』12-16頁 日本西アジア考古学会。
- 西山伸一 2006.10「水場と信仰：2006年、アフガニスタン・カーブル周辺の踏査」『日本オリエント学会 第48回大会研究発表要旨集』38頁 日本オリエント学会。
- 西山要一 2006.3「ローマ時代壁画地下墓 TJ04の保存修復 - レバノン・ティール郊外における第2年度の概要 - 」『第13回西アジア発掘報告会報告集』120-127頁 日本西アジア考古学会。
- 西山要一 2006.3「世界遺産の大気環境 - 奈良・屋久島・レバノン - 」『レバノン共和国・ティール市郊外ラマリ地区所在の地下墓 TJ04の保存修復研究 2004年度概要報告』『総合研究所所報』14:115-123、243-254頁 奈良大学総合研究所。
- 西山要一 2006.3「ティール郊外ラマリ地区所在地下墓 TJ04の環境」、泉拓良(研究代表者)『レバノン・ティール遺跡での縦穴墓・地下墓の発掘調査』(平成14～16年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)研究成果報告書)99-113頁。
- 西山要一 2006.3「レバノン共和国・ティール市郊外ラマリ地区所在の地下墓 TJ04保存修復研究 2004・2005年度概要報告」『文化財学報』23・24:13-35頁 奈良大学文学部文化財学科。
- 西山要一 2006.6「壁画の保存環境 - レバノンのローマ時代壁画地下墓から高松塚古墳壁画の保存を考える」『日本文化財科学会第23回大会研究発表要旨集』52-53頁 日本文化財科学会。
- 日本西アジア考古学会(編)2006.6『日本西アジア考古学会 第11回総会・大会要旨集』。
- 日本西アジア考古学会(編)2006.12『馬とワイン - その起源と広がりを探る - (第8回日本西アジア考古学会公開セミナー要旨集)』。
- 日本西アジア考古学会(編)2006.3『第12回西アジア発掘調査報告会報告集』。
- 日本西アジア考古学会編集委員会(編)2006.3『西アジア考古学』7。
- 沼本宏俊 2005「シリア、テル・タバンの遺跡」『考古学研究』52/2:109-111頁 考古学研究会。
- 沼本宏俊 2006.3「粘土板文書を発見！テル・タバンの遺跡の発掘調査(2005年)」『第13回西アジア発掘報告会報告集』56-62頁 日本西アジア考古学会。
- 沼本宏俊 2006.9「シリア、テル・タバンの遺跡の発掘調査(2005年)」『国史館考古学』2:57-77頁 国史館考古学会。
- Numoto, H. 2006 Excavation at Tell Taban, Hassake, Syria (4): Preliminary Report of the 2005 Winter Season of Work. *Al-Rafidān* 27:1-44.
- 長谷川敦章 2006.3「伝チヨガ・ザンビル出土の青銅製輪縁およびカヴァーについて」『西アジア考古学』7:55-60頁 日本西アジア考古学会。
- 長谷川奏 2006.10「古代末期の上エジプトにおける物質文化の展開」『日本オリエント学会 第48回大会研究発表要旨集』48頁 日本オリエント学会。
- 長谷川奏・吉村作治 2006.3「早稲田大学エジプト調査隊発掘調査 - 2005年度の活動について - 」『第13回西アジア発掘報告会報告集』12-16頁 日本西アジア考古学会。
- 芳賀 満 2006.9「ウズベキスタンの古代都市 - 2005年度のジェネラル・サーヴェイから - 」『京都造形芸術大学紀要』10:64-89頁 京都造形芸術大学。
- 芳賀 満 2006.11「人のすまい、民族のすまい - 中央アジアのウズベキスタンでの美術・考古学予備調査を踏まえて」『Aube - 比較芸術学(特集すまう)』1:136-146頁 京都造形芸術大学比較芸術学研究センター。
- 芳賀 満 2006.12「ウズベキスタン共和国カンピール・テバ発掘調査速報(2006年度)」『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- Hashimoto, H., M. Abe. and S. Fujii 2006.1 Skeletal Remains from the Tal'at Abydah Caim Field, Jordan. (poster session) WAC Intercongress Osaka 2006.
- 花坂 哲 2006.3「アコリス遺跡出土の土製鋳型とガラス製ビーズに関して」『GLASS』49:33-40頁 日本ガラス工芸学会。
- 馬場匡浩 2006.3「エジプト先王朝時代の製陶工具 - ヒエラコンポリス遺跡土器焼成遺構の発掘調査の成果から - 」『西アジア考古学』7:93-106頁 日本西アジア考古学会。
- 馬場匡浩 2006.3「エジプト文明形成期における土器焼成窯の展開 - ヒエラコンポリス遺跡の発掘調査から」『日本オリエント学会第48回大会研究発表要旨集』7頁 日本オリエント学会。
- 馬場匡浩 2006.10「エジプト先王朝時代のビール作り」藤本強編『生業の考古学』307-321頁 同成社。
- 原口陽子 2006.3「アツアール洞窟A出土織物データベースの活用について」『イコム大会報告書(第20回韓国ソウル大会)』32-33頁 財団法人日本博物館協会。
- 原口陽子 2006.6「イラン」「イラク」「ハンガリー」丹野郁監修『世界の民族衣装の事典』東京堂出版。
- 春田晴郎 2006.7「オスロエネ王国案内」『オリエンテ』33:14-23頁 古代オリエント博物館。
- 春田晴郎 2006.12「バルデ・ネシャーン出土柱側面浮彫像」『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- 林 國郎・西山要一 2006.6「熱伝導率による無機造形物の劣化度の定量的評価5 - TJ04地下墓内崩落物による“その場”評価の検証 - 」『日本文化財科学会 第23回大会研究発表要旨集』54-55頁 日本文化財科学会。
- 林 俊雄 2006.7『グリフィンの飛翔』雄山閣。
- 樋口隆康・西藤清秀 2006.3「パルミラ遺跡東南墓地下墓 H号墓の修復と復元」『第13回西アジア発掘調査報告会報告集』128-135頁 日本西アジア考古学会。
- 平敷イネ 2006.10「ヒッタイトの山の神、ネオ・ヒッタイトの天候神」『日本オリエント学会 第48回大会研究発表要旨集』25頁 日本オリエント学会。
- 深見奈緒子 2006.12「ウマイヤ朝期の建築文化 - レバノン、ヨルダン調査から」『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』103-107頁 ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- 藤井純夫 2005.3「ヒツジ遊牧の起源と展開：ヨルダン、ジャフル盆地の総合調査(2004年度)」『第12回西アジア発掘調査報告会報告集』26-37頁 日本西アジア考古学会。
- 藤井純夫 2005.9「セム系遊牧部族の墓制に関する比較研究」『Newsletter セム系部族社会の形成』1:6頁。
- 藤井純夫 2006.3「ワディ・アブ・トレイハ：ヨルダン南部のPPNB遊牧拠点」『第13回西アジア発掘調査報告会報告集』35-47頁 日本西アジア考古学会。
- 藤井純夫 2006.3「計画研究班 セム系遊牧部族の墓制に関する比較研究」『セム系部族社会の形成 平成17年度研究報告』37-43頁。
- 藤井純夫 2006.3「セム系遊牧部族の墓制に関する比較研究」『News letter セム系部族社会の形成』2:5-8頁。
- 藤井純夫 2006.6「定住化遊牧民の集落内氏族配置と墓地・井戸の分有関係 - ヨルダン南部、フセイニーエ村の事例研究」『日本西アジア考古学会 第11回総会・大会要旨集』23-26頁 日本西アジア考古学会。

- 藤井純夫 2006.10 「ウマイヤ朝の獵園、ワディ・ブルマ」『日本オリエント学会 第48回大会公開講演・研究発表要旨集』45頁 日本オリエント学会。
- 藤井純夫 2006.10 「ペドウインの置き火直焼き無発酵パン「アルブード」について」藤本強(編)『生業の考古学』332-337頁 同成社。
- Fujii, S. 2005 Wadi Burma North, Tal'at Abyda, and Wadi Qsair: A Preliminary Report of the Third Operation of the al-Jafr Basin Prehistoric Project, Phase 2 (2004, Summer). *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 49: 17-55.
- Fujii, S. 2005 Harra al-Juhayra Pseudo-Settlement: A Preliminary Report of the Second Operation of the al-Jafr Basin Prehistoric Project, Phase 2 (2004, Summer). *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 49: 57-70.
- Fujii, S. 2006 Wadi Abu Tulayha: A Preliminary Report of the 2005 Spring and Summer Excavation Seasons of the Jafr Basin Prehistoric Project, Phase 2. *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 50 (forthcoming).
- Fujii, S. 2006b A PPNB Agro-pastoral Outpost at Wadi Abu Tulayha, al-Jafr Basin. *Neo-Lithics* 02/06: 3-17.
- 藤井秀夫 2006.3 「考古遺跡の調査を通じて得た、イラクにおける風土と民族性・文化特性の特質について」『世界の中の日本 25 - 世界を見る、そして今、日本を考える - 』193-211頁 『世界の中の日本・産業と人間』81-99頁 拓殖大学広報室。
- 藤井秀夫 2006.3 「イラク西南砂漠が果たした文化史上の役割」「アッタール洞窟遺跡」「メソポタミアでの発見：イラク古代文化研究所 30周年記念」5-6頁 国士舘大学イラク古代文化研究所。
- 藤井秀夫 2006.3 「博物館収蔵品の資料化の方法と緊急課題として、出所不明で疑わしい輸入遺物を取り締まるのに必要な法律の制定についての提案」『イコム大会報告書(第20回韓国 ソウル大会)』37-44頁 財団法人日本博物館協会。
- Fujii, H. 2006.1 The Necessity for Establishing a List Making Method for Cultural Objects and Consequently, Urgent Necessary Legislative Measures to Check Doubtful, Unprovenanced Imported Objects: Learned from the Current Situation of the Missing Iraqi Objects. *Hayat Erkanela Armagen Kulturelerin Yansemase*: 365-367, Homer Ketabevi.
- 堀 暁 2006.1 「古代インドの都市計画考」『オリエンテ』32:13-18頁 古代オリエント博物館。
- 堀 暁 2006.7 「動物文の石製分銅」『オリエンテ』33:2-3頁 古代オリエント博物館。
- 堀 暁 2006.10 「中央アジアにおける分銅の質量調査」『日本オリエント学会 第48回大会研究発表要旨集』44頁 日本オリエント学会。
- 堀 暁・吉田邦夫・松永しのぶ・柏 智久・水谷直樹 2006.12 「ガンダーラ化粧皿の科学的分析」『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』28-34頁 ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- Hori, A. 2006.3 The Indus Script: Who wrote it and what does it comprise? 『古代オリエント博物館紀要』25:17-25頁 古代オリエント博物館。
- 本郷一美 2006.9 「ヒトコブラクダの家畜化と伝播」『西南アジア研究』65: 56-72頁。
- 前川和也 2006.3 「前3千年紀メソポタミア、シリアのイエロバとノロバ：再考」『西アジア考古学』7:1-19頁 日本西アジア考古学会。
- 牧野久実 2006.5 「古典時代のキネレト湖における湖上輸送～琵琶湖研究の成果を参考に～」『史学』74/3:217-247頁 三田史学会
- 牧野久実 2006.12 「古代キネレト湖の船と水運～琵琶湖研究の成果を参考に～」『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』81-83頁 ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- 松本 健 2006.8 「GISと遺跡の立地調査法」『Newsletter セム系部族社会の形成』3:20-23頁。
- 三宅 裕 2006.3 「西アジアにおける土器の起源を探る：トルコ、サラット・ジャーミー・ヤヌ遺跡第2次調査(2005年)」『平成17年度今よみがえる古代オリエント 第13回西アジア発掘調査報告会報告集』48-55頁 日本西アジア考古学会。
- 三宅 裕 2006.9 「西アジア先史時代におけるパイロテクノロジー - 銅冶金術のはじまり - 」『国士舘考古学』2:37-55頁 国士舘大学考古学会。
- Miyake, Y. 2006.5 2004 Yili Diyarbakie Ili, Salat Cami Yani Kazisi. 27. *Kazi Sonuclar Toplantisi 2. Cilt*:117-30.
- 宮坂 朋 2006.12 「レバノン、ラマリ遺跡地下墓TJ04壁画について」『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』63-66頁 ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- 宮下佐江子 2006.8 「パルミラの植物文様」『Newsletter セム系部族社会の形成』3:15-19頁。
- 宮下佐江子・津村眞輝子(編)2006.9 『シルクロード 華麗なる植物文様の世界』山川出版社。
- 村治笙子 2006.3 「アビュドスのセティ 世葬祭殿で王がオシリスになる儀式」『古代オリエント博物館紀要』25:27-41頁 古代オリエント博物館。
- 柳生俊樹 2006.12 「スキタイの馬面について」『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』1-7頁 ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- 矢澤 健 2006.6 「エジプト、アブ・シール南丘陵遺跡、石積み遺構南側から出土した土器群に関する一考察」『日本西アジア考古学会 第11回総会・大会要旨集』38-43頁 日本西アジア考古学会。
- Yasumoto, T. 2006.3 A marble head of Bodhisattva from Gandhara and Roman sculptures around the latter half of the 2nd century - Including the stylistic relations of clay-sculptures from Tapa-Shotor (Hadda) - 『古代オリエント博物館紀要』25:57-71頁 古代オリエント博物館。
- 山内和也 2005.3 「文化財研究所による2004年度パーミヤーン遺跡調査の成果」『第12回西アジア発掘報告会報告集』:106-110頁 日本西アジア考古学会。
- 山内和也 2006 「よみがえる仏教壁画 - パーミヤン N(a)窟 - 」『佛教美術』289:95-99頁。
- 山内和也・岩井俊平 2006.3 「文化財研究所による2005年度のアフガニスタン・パーミヤーン遺跡保存事業」『第13回西アジア発掘報告会報告集』67-72頁 日本西アジア考古学会。
- 山内紀継・日野 宏 2006.3 「イスラエル国 テル・レヘシュの予備調査」『第13回西アジア発掘報告会報告集』109-114頁 日本西アジア考古学会。
- 山下王世 2006.12 「アンカラにおけるコジャテペ・モスクのデザイン変更について」『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』108-113頁 ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- 山田重郎 2006.3 「文書史料におけるセムの系譜、アムル人、ピシュリ山系」『セム系部族社会の形成 Newsletter』2:8-13頁。
- Yamada, S. 2006.3 Assyrian Trading Posts on the East Mediterranean Coast: An Aspect of Assyro-Greek Contact. 『ギリシアにおけるポリスの形成と紀元前8世紀の東地中海世界』(平成14～16年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(2)研究成果報告書、研究代表者：桜井万里子)109-122頁。

- 山藤正敏 2006.2 「前期青銅器時代 - 期におけるエジプト - パレスティナ地域間関係の変遷 - パレスティナ地域出土エジプト系石製品の検討から - 」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』51/4:133-144 頁 早稲田大学大学院文学研究科。
- 雪嶋宏一 2006.3 「前2千年紀前半中央ユーラシアの円盤型鏃について」『西アジア考古学』7:21-34 頁 日本西アジア考古学会。
- 吉武隆一・伊藤重剛 2006.12 「古代メッセネのアスクレピオス神域におけるストアの調査と研究」『第13回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』84-90 頁 ヘレニズム～イスラーム考古学研究会。
- 吉村作治・近藤二郎・河合 望・柏木裕之・西坂朗子・高橋寿光・矢澤 健 2006.3 「発掘調査概要」アブ・シール南丘陵遺跡第14次調査報告『エジプト学研究別冊』第10号: 19-43 頁。
- Yoshimura, K., T. Nakahashi and K. Saito 2006.1 Why did the ancient inhabitants of Palmyra suffer fluorosis? *Journal of Archaeological Science* 33:1411-1418.
- Robinson, S. M. 2006 X Following a False Trail - The Search for the Hittites. *Al-Rāfidān* 27:101-116 頁 国士舘大学イラク古代文化研究所。
- Wakita, S. et al. 2006.3 A Burial in the Middle Euphrates, in Syria Grave D-No.21: An Early Bronze Age grave in Area D in Rumeilah. 『古代オリエント博物館紀要』25:1-16 頁 古代オリエント博物館。
- 和田久彦 2005.3 「シリア、テル・マストゥーマ 2004年度現地調査および整理作業」『第12回西アジア発掘報告会報告集』59-63 頁 日本西アジア考古学会。
- 渡辺千香子 2006.10 「アッシュルバニパルの浮彫 バビロン戦利品の観閲図 に関する考察」『日本オリエント学会 第48回大会研究発表要旨集』24 頁 日本オリエント学会。
- 渡邊浩明 2006.1 The Syro-Ephraimite War and its Implications. 『梅光学院大学・女子短期大学部論集』39:37-46 頁。